

東院庭園 庭の宴

2013年から継続し今年で6回目となる、奈良文化財研究所主催の東院庭園庭の宴を2018年9月22日に開催しました。今年度から平城宮跡の活用に関する実践的な研究と位置づけて、文化遺産部遺跡整備研究室を中心に準備をしました。観覧者約200人がきれいな月を観ながら古代食と白酒(奈良パークホテル提供)を味わいました。

今年のテーマは称徳天皇の時代の「東院玉殿の完成」です。『続日本紀』神護景雲元年(767)4月14日条には東院の玉殿が新たに完成し、群臣が集まって祝ったこと、その建物には瑠璃色の瓦を葺き、水草の文様を描いたことが記されています。これに関連し、福嶋啓人研究員が「東院庭園の復元建物について」、岩戸晶子主任研究員が「東院玉殿に葺かれた緑釉瓦について」と題したミニ講演をおこないました。また、雅楽演奏家の太田豊氏らによる、雅楽歌謡である催馬楽「更衣」、東大寺大仏開眼法要に際して渡来した僧仏哲が伝えたとされる舞楽「陵王」等が演奏されました。

古代衣装のファッションショーは、玉殿完成の祝いの後に、天皇と限られた側近の者が内輪の宴を東院庭園でおこなったという場面設定です。同年2月14日、天皇が東院に出御し、出雲国造出雲臣益方いずものくにのみやつこいずものおみすかたが神事を奏して外従五位下を受けられ、同行した祝部はふり(地方の社の下級神職)らも位等を与えられたことに因み、宴に先立ち、称徳天皇から出雲臣益方が位記を授与され、祝部が舞を奉納する演出とし、巫女の経験のある研究員が舞を披露しました。

平城宮跡の活用方法については夜間の東院庭園に限定せず、新たな展開を考えたいと思っております。

(文化遺産部 内田 和伸)



祝部による舞の奉納